

東海地区医学図書館協議会  
2017 年度実務担当者研修会

日 時：2017. 12. 1（金） 10：10～16：00（受付 9：45～）

会 場：愛知学院大学 楠元キャンパス

（〒464-8650 名古屋市千種区楠元町 1-100）

法人本部 2 階大会議室 / 4 号館 3 階コンピュータ室

< プログラム >

9：45～ 受付

10：10 ガイダンス

▽午前の部（10：20～11:30）

シリーズ「医学・医療を学ぶ」第 5 回 <1>

演題：がん免疫療法：その歴史と最近の話題

講師：葛島清隆氏（愛知県がんセンター研究所腫瘍免疫学部長）

がん免疫治療は、19 世紀に外科医コーリーが細菌毒素を患者に投与したことに端を発します。1970-80 年代には BCG、ピシバニール、クレスチンなどが抗がん剤として使われるようになりました。これらの治療は「非特異的」がん免疫療法として分類されます。1990 年代に入り、悪性黒色腫を傷害するキラー T 細胞の認識抗原が同定され、「特異的」がん免疫療法の時代の幕が開きました。がん治療ワクチンとして、ペプチド、蛋白などが接種されましたが治療効果は期待されたほどではありませんでした。

現在、最も期待されているがん免疫治療は、1) 免疫チェックポイント解除療法、2) 遺伝子改変 T 細胞療法です。

1) の治療コンセプトは、「特異的・非特異的」の分類に当てはめることができない斬新なものです。がん患者体内にはがんを攻撃できるキラー T 細胞が存在しますが、ブレーキ（チェックポイント作用）がかかって働くことができません。ブレーキとなる CTLA-4、PD-1 分子などの作用をブロックする抗体を投与すると、悪性黒色腫、肺がん、頭頸部がん、腎がん、胃がん、大腸がん、ホジキンリンパ腫など、多種多様ながん患者において著明な効果があることが明らかとなりました。しかし、効果は 1、2 割の患者にとどまるため、現在の研究の主流は、有効例の予測と無効例における新たな治療法の開発に移行しつつあります。

2) 遺伝子改変 T 細胞療法では、がん特異的キラー T 細胞の T 細胞受容体遺伝子(TCR)、または、抗体を T 細胞の膜蛋白に融合した遺伝子(CAR)を、患者リンパ球にレトロウイルスベクター等で導入し体内に戻す治療法です。講演では、がん免疫療法の歴史を振り返りつつ、現在から未来への展望を述べます。

11：30～13：00 昼食・休憩

## ▽午後の部 1 (13:00～14:15)

### シリーズ「医学・医療を学ぶ」第5回 <2>

演題：心理学と公認心理師：医療現場における公認心理師の役割

講師：二宮克美氏（愛知学院大学総合政策学部教授・図書館情報センター館長）

2017年9月より国家資格として「公認心理師」が誕生することになった。しかし法律が施行されたものの、国家試験は2018年秋頃に実施予定である。実際に「公認心理師」が文字通り目の前にあらわれるのは、約1年先である。そもそも「公認心理師」とは何か、医療現場における役割とは何か、について概説する。またその養成にあたり、どのような科目が必要なのか、従来の「心理学」という学問とどう違うのか、など様々な視点から解説する。医学図書館実務担当者として知っておいた方が良いと思われる事項について述べることにしたい。

14:15～14:45 休憩

## ▽午後の部 2 (14:45～15:55)

### シリーズ「実務で役立つ情報技術：ソフトウェア類利用のコツ」 第4回

講義＋実習：医中誌 WEB の検索：検索結果から検索式を考える

講師：柿田憲広氏（東海地区医学図書館協議会顧問）

文献検索は、検索式をどう作るのが重要視されてきた。確かに検索式を作ることは重要だが、その結果の文献一覧に自分の求めている文献が数多く含まれていることも重要である。

医中誌 WEB の検索は、シソーラスだけでなく、タグも使うことができる。これらを色々使いながら、星の数ほどある文献の中から求める文献を選びだす方法を皆さんとともに考えたい。

※名札の代わりとして、名刺をご持参ください。

※昼食は、各自でご用意ください。会場内は、飲食禁止となっております。学内のカフェテリアまたは学生ホールをご利用いただくか近隣の飲食店をご利用ください。